

平成16年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 人間形成講座

氏 名 伴 恒 信

プロジェクトの名称	サービス・ラーニングに基づく地域連携道德教育実践カリキュラムの開発研究	配 分 予 算 額	円 671,000
プロジェクトの概要	本研究の目的は、現在アメリカの学校で広く展開されているサービス・ラーニングの理念と方法論に倣い、子どもが学校および地域社会の諸活動に関わり奉仕体験するなかで一貫した教育内容を学びつつ道德性を培うようなカリキュラムを学校と共に開発・評価し、同時に本学大学院の現職教員や教員養成学部の学生たちがそのプログラムに実践的に参画することによって自らの教育実践力ならびに指導力を高める教育実践プログラムの確立をはかることにある。わが国においても緊急の課題となってきた学校教育の質的向上は、初等中等教育における一貫した道德教育と教員養成大学における教育の指導実践力ある教員の育成によって真に達成されるものである。 教育研究支援プロジェクトでは、主に以下の3点に絞って研究を実施した。 ①地域の小学校における大学院生および学部学生の教育実践インターンシップとアクション・リサーチ ②児童生徒の道德性ならびに道德教育の現況と道德教育評価方法の開発 ③大学院生および学部学生参画による地域の小学生「こころの育成」塾		
成果の概要	①地域の小学校における大学院生および学部学生の教育実践インターンシップとアクション・リサーチ 鳴門教育大学の大学院生および学部学生が、平成16年5月からボランティアの形でサブ・ティーチャーとして定期的に研究協力校の授業に参加協力を行った。担任教師との信頼関係が樹立できた学生は、さらに進んでその実践をビデオ等に記録し教育実践のドキュメンテーションと内容分析に当たった。学生が単なるインターンシップとして学校で実践経験を積むだけでなく、そこから独自に学んで大学の教育研究活動の一部ともなる、まさにサービス・ラーニングの真骨頂がここにあるのである。また、大学院生が県下および地元の研究協力校での道德教育実践の観察調査を行うためフィールドワークに出かけ、エスノグラフィ的手法で研究をまとめるアクション・リサーチの方法論の実践的学習を行った。 ②児童生徒の道德性ならびに道德教育の現況と道德教育評価方法の開発 今回児童生徒の道德性ならびに道德教育の現況を調べる調査を企画するに当たっても、これまでの国際比較調査を踏まえ、できるだけ比較検討できるような共通の質問項目を盛り込むように心掛けた。県下の子どもの達がその道德的社会行動において国際的かつ全国的レベルから見てどの辺に位置付くのか、教師の間でも道德教育については他県に優るとも劣らない努力を傾注しているか、自負するその具体的成果が子ども達自身の道德性や社会行動から示されるのか、徳島県の道德教育の客観的評価と今後の課題を明確にすることを目的として調査を実施した。 ③大学院生および学部学生参画による地域の小学生「こころの育成」塾 この「こころの育成」塾なる試みは、鳴門教育大学の大学院生および学部学生のボランティアな自主性をさらに尊重し、学生および児童双方の「こころの育成」をはかるサービス・ラーニングの一つである。通常の学校教育の場でありながら、日常性を打破するようなスポーツや趣味の活動を通じて子どもたちの心を解放し、学生と児童が親しく係わりを結んで相互成長を促す機会を設けた。具体的には、児童たちの経験したことのないスポーツ、即ちシュラークバル（ドイツ式野球）やタッチフット（遊技型フットボール）を授業時間や休み時間をかりて行ったり、学生たちの主導による「読み聞かせ」などの活動を行った。		